

4 範囲を決めて、徹底する

前項までで、「掃除を継続する極意」について事例を解説しながら3つ紹介してきました。この3つに、あとひとつ加えるとすれば、それが「範囲を決めて、徹底する」ということです。この項では、この「範囲を決めて、徹底する」について学びます。

掃除について語られるとき、よく揶揄される表現として、「四角い場所を、丸く掃除している」というのがあります。この表現は、大雑把な掃除をしている人に向けられる批判の声としてよく使われます。

たしかに、四角い場所を丸く掃除しているようでは、納得のいく仕上がりは期待できません。四角い場所は四角く、丸い場所は丸く掃除して初めて仕上がりのよい掃除になります。とくに、納得のいく掃除をしようと思えば、隅や角を徹底して掃除することです。

この「範囲を決めて、徹底する」について、鍵山さんが語った一例を紹介します。



鍵山さんがここで話しているのは、大雑把に掃除しても、すぐ元の状態に戻ってしまうということです。大雑把に広くではなく、たとえ狭くても範囲を決めて徹底する。範囲を決めて徹底することによって、境目の汚れが目立つようになります。そうすると、掃除せずにおれなくなるのです。

私たちはよく、「そのうち、まとめて、一気にやろう」といってやりません。そうではなく、「毎日、少しずつ、できるだけやろう」と切り替えて、最初の一步を踏み出すと、目的が近づいてきます。

そのコツを、「範囲を決めて、徹底する」掃除から学んでください。

つぎに、鍵山さんが普段実践している、「範囲を決めて、徹底する」掃除の一例を紹介します。

グレイチング（排水溝）の掃除

街頭掃除をするとき、どちらかというと私は道路排水溝のグレイチング（鋼材を格子状に組んだ溝ふた）を優先して始めます。グレイチングが詰まって

掃除のコツ

掃除をするとき、私がとくに心がけていることは、範囲を限定して、掃除を徹底するということです。

たとえば、Pタイル1枚をまずきれいにするとか、あるいは、廊下を1メートルずつ区切って徹底して磨く、というような掃除をします。そうすると、汚いところときれいなところがはっきりしてくるので、それを放っておけない気持ちになります。

さらに、あとひとつつけ加えるならば、動かせるものはすべて動かして、物が置いてあった陰まで掃除することです。

このようにしておくで、掃除がやりやすくなります。いっぺんにやろうとしても、けっしてできるものではありません。やってもすぐ元に戻ってしまうだけです。



グレイチングの掃除

こうしたグレイチングの掃除に対して、人によっては、「そんなところまで」と思われるかもしれませんが、ところが、鍵山さんは、こうしたことこそ放っておけない大きな社会問題として捉えています。

事実、本来、流れるべきところが淀んでいると、災害の原因になります。それだけではありません。周辺の景観を損なうばかりか、漂う空気まで濁ってきます。

たとえば、人間の血管も同じ。血液をスムーズに流れるようにすることで、私たちは健康を維持することができます。グレイチングも、例外ではありません。

いては、根本的な問題解決にならないからです。

ところが、場所によっては、詰まっているばかりでなく、ふたが開かないグレイチングもしばしばあります。そんなときは、1カ所を仕上げるのに、小1時間費やすことも珍しいことではありません。それでも私は、徹底して実行してきました。

掃除方法としては、

- ①ふたを開ける（ふたが開かないときは、パールなどを駆使する）
- ②ふたを横脇に置き、溝に詰まったゴミや石を除去する（使用する道具は、スクレイパーやマイナスドライバーなど）
- ③グレイチングのふちをきれいに掃除する
- ④排水溝内部に詰まっているゴミ・汚泥を、底が見えるまで除去する（使用する道具は、スコップ・十能・手づくりの泥あげなど）
- ⑤ふたをして、汚した周辺を水洗いする

ここまでの掃除をすると、言葉には表せない清々しい達成感があります。場の雰囲気生き返ってきます。もちろん、掃除したグレイチングと、していないグレイチングとの差が明確になり、つぎをやる気力になります。